



香川県立中央病院
Kagawa Prefectural Central Hospital

れんけい

題字: 松尾信彦書

職場紹介

救急部

救急部 部長 佐々木 和浩

当院救急部は、昨年10月より新たに合田雄二医師を迎え、24時間365日、救急患者さんの診療を行っています。平日昼間は合田、岡、佐々木の3人と研修医の先生を中心に看護師さんとともに初期対応医療を行っています。夜間や休日は各科の先生方にもご協力いただいて、初療を担当していただいております。当院は香川県より救命救急センターの指定を受けており、いわゆる三次救急の患者さん（心肺停止、重症多発外傷・熱傷、脳卒中、心筋梗塞など）の最後の砦として、職員一丸となって日々頑張っております。



平成24年の1年間の救急車搬入は3,385件で、受診患者総数は11,288人でした。1日9~10台の救急車を受け入れていることとなります。そのうち心肺停止患者は177人と、県下随一の多さとなっています。救急車で受診した約6割の患者さんがそのまま入院となっており、比較的重症度の高い患者さんが多いのが特徴です。我々救急部は的確にかつ迅速に重症度および緊急度を見極め、初期治療や検査を進め、各科の先生方の協力のもと根本治療へとつなげていく、大事な架け橋の役割を担っていると思っています。来年3月には新病院の開院も迫っていますが、今まで以上に質の高い救急医療を皆様に提供すべく頑張っておりますので、よろしくお願いいたします。

新しく認定看護師に変わりました。

皮膚・排泄ケア認定看護師 南3病棟(ICU) 東山直美

皮膚は外界からの様々な刺激から体を守り、排泄は老廃物を体外へ排出するという日常生活から切り離すことができないものです。

皮膚・排泄ケア認定看護師に期待される能力として、褥瘡などの創傷管理およびストーマ、失禁等の排泄管理、患者・家族の自己管理およびセルフケア支援があります。患者様が病気などで皮膚トラブルや排泄に問題を抱え日常生活に支障を来す状況に陥った場合、またそれらを予防することに役割があります。当院には既に1名の皮膚・排泄ケア認定看護師がおり、褥瘡回診やストーマ外来・骨盤機能外来などを行っています。

相談しやすい環境作りに努め、医療スタッフと協働し患者様のより良い日常生活の支えとなれる認定看護師を目指します。



退職者あいさつ 心臓血管外科 主任部長(中央病院診療部長)多胡 護

平成2年4月に中央病院に赴任して23年の月日が経ち、この度3月31日で退職することとなりました。長い間お世話になった方々に感謝を申し上げます。

赴任当時は外科に属していましたが、平成13年4月に心臓血管外科として診療科が分かれたため、心血管系の外科手術に専念してきました。そして、たくさんの経験をさせていただきました。また、その間、臨床工学室の充実も一つの目標としてやってきましたが、一応目標達成ができたと思います。

当院は平成26年には新病院に移る予定です。そして、急性期病院としての使命を果たしていく方向です。これからの医療は、他病院、地域との連携をしっかりと取りながらやっていく必要があります。皆様のご協力をお願いいたします。

中央病院のこれからの益々のご発展を祈りながら、私自身は次の人生に向かって再スタートを切りたいと思います。

本当に長い間、ありがとうございました。



退職者あいさつ

薬剤部 部長 小西 修

県立病院に勤務して36年。その間3つの県立病院を経験しました。長かったようで、あつという間だったような気がします。最初の赴任地である津田病院では新病院への引っ越しを経験し、中央病院では改修工事を、白鳥病院では新病院の建築、整備に関わることができました。今、新中央病院は平成25年度末の開院に向けて急ピッチで工事が進められています。中央病院は地域の基幹病院として連携を取りつつ先進医療、救急医療を確保することを期待される責任の重い重要な病院です。今回の新病院の建築は全職員のモチベーションを上げることになるでしょう。私は残念ながら新病院で働くことはできませんが、「地域医療の最後の砦」として職員の皆様が一致団結して発展し続けていくこと祈念いたしております。また、これまで支えてくださった職員の皆様に感謝いたします。

好きな言葉: 人生に回り道はない。日々、経験を重ねる事だと思っています。



退職者あいさつ

中央検査部 主幹 池尻 久仁子

長年勤務いたしました県立病院を退職する日がまいりました。その日を前にして悲喜交々の思いが脳裏を去来し、落ち着かない日々でした。

振り返ってみるに、人生の大半をこの病院で過ごし、数えきれないほど多くの方々との出会いや別れがありました。特に最後の3年間は試練とも思えるさまざまな出来事にも出会い、未知の経験を積ませていただくことができました。そのことで少しは成長し、身につくものも多かったのかなという気がしています。これも、皆様と同じ時をともに過ごすことができたお陰だと心から感謝しております。

新病院の開院に向け、職員の皆様には本当に大変な1年になるかと思いますが、香川県が誇れる立派な病院になることを祈念しております。

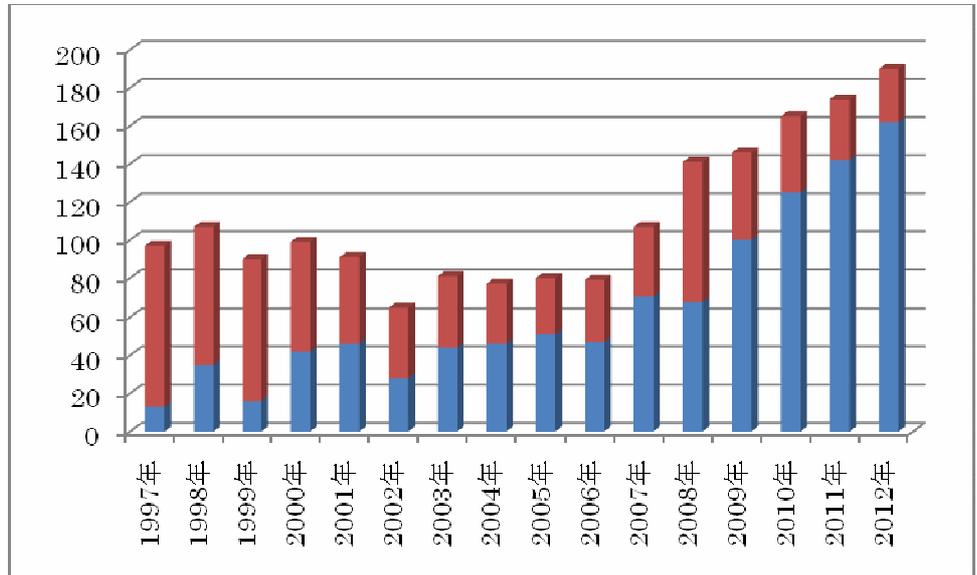
最後になりましたが、私の好きな言葉は「明けぬ夜はない」です。どんな困難にあっても、暗い夜は明るい朝につながり、寒い冬が過ぎれば春が訪れます。今、春真っ盛りです。これからは、ほんの少しですが自分の時間を持ち、花のある暮らしを楽しんでいきたいと思っています。

本当に長い間ありがとうございました。

データで見る中央病院「呼吸器外科手術、胸腔鏡下手術の変遷と現状」呼吸器外科

呼吸器の手術は、肋骨、胸骨に囲まれた胸腔内で手術操作を行うため、古典的な開胸手術では、肋間神経痛に起因した術後疼痛が大きな問題でした。当科では、1995年より、低侵襲で、肋骨を切除することなく呼吸器手術が可能となる、胸腔鏡下手術を導入してきました。現在では、肺癌手術をはじめ、気胸手術、縦隔手術など、ほぼすべての呼吸器手術において積極的に胸腔鏡下手術を取り入れています。

当科における手術数（棒の高さ）と胸腔鏡下手術数（青色部分）の変遷



2012年には、全呼吸器手術190例中162例、85%の患者さんで、胸腔鏡下に手術が行われました。また、162例の胸腔鏡下手術のうち87例では、小開胸を併用しない完全鏡視下手術で手術を完遂しています。

より低侵襲な術式で手術を行うということは、患者さんには「優しい」手術ということです。術後の回復も早く、典型的な肺癌に対する肺葉切除の患者さんの術後在院日数は、平均で7.2日まで短縮することができています。

今後も、さらに、「患者さんに優しい」低侵襲で、質の高い、呼吸器外科手術に、積極的に取り組んでいきたいと思っています。

呼吸器外科 診療科長 青江 基

医療セミナーを開催しました。

平成25年2月7日(木)19:00から、当院10階会議室において、「化学療法の副作用対策」と題して医療セミナーを開催しました。講師は消化器・一般外科 山川俊紀部長と、皮膚科 井上雅子医長でした。参加者は医師等37名で、院外からも21名の先生方にご出席いただきました。

山川医師からは、当院における大腸がんの手術症例数の推移や、ステージ別大腸がんの治療方針、Infuser pumpやCV portを使った最新の化学療法、減量・休薬といった副作用対策についての講演がありました。

井上医師からは、抗がん剤による皮膚障害について、分子標的薬を中心に講演がありました。分子標的薬の種類、従来の抗悪性腫瘍薬との相違点、皮膚障害の症例とその対応などのお話でした。

今後も当院における医療を代表し、興味あるさまざまなテーマを取り上げて、皆様のお役に立つ医療セミナーを積極的に開催していく予定です。是非ご参加下さい。



厚生労働省および臓器移植ネットワークによる「臓器提供に関わる院内体制整備事業」について

平成23年度より、臓器提供が可能な施設において院内体制を整備して、臓器提供活動の活性化を図る活動を支援する事業を、厚生労働省および社団法人日本臓器移植ネットワークが企画、対象医療施設を公募しました。当院は、事業初年度より全国で4つの医療機関（公立病院では唯一）に選ばれて、院内での臓器提供に関わる体制づくりを行ってきました。

平成24年度も同事業が、規模を拡大し展開されることになりました。医療機関は17医療機関に拡大され、2組に分けられました。当院は過去の臓器提供実績、院内体制整備の状況から、体制整備指導医療機関（医療機関A組）に



院内移植ドナーコーディネーター

選定され、今後2年間、体制整備医療機関（B組）の指導をして行くことになりました。平成25年2月25日中国四国地区でB組に選定された徳山中央病院に、医師2名、看護師4名、事務2名を派遣し、院内臓器提供体制整備のための講演会、ならびに病院見学、指導を行って参りました。また、指導医療機関A組として、他医療機関の指導だけでなく、昨年以上の自院院内体制整備の充足も求められています。今後、全病院職員の方への移植医療のさらなる啓蒙、ならびにスムーズな院内連携確立のための臓器提供シミュレーションの定期実施、提供症例数把握のための死亡退院症例の分析や臨床など、職員の皆様にはご協力をお願いすると思われまます。よろしくお願ひします。

また、臓器提供は、今後益々、地域医療の中核病院の責務として果たして行かなければならない分野であると思われまます。医療連携して頂いている各機関の先生方、その職員の方々、救急医療関係の皆様、さらには香川県民の皆様におかれましては、当院の役割を十分理解して頂き、移植医療に、なお一層のご協力を頂けまますよう、よろしくお願ひします。

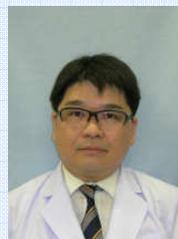
呼吸器外科 診療科長 青江 基

医師の人事異動

転入
自己紹介は、①出身大学 ②卒業年 ③趣味 ④抱負です。

1月1日付

吉田 淳（糖尿病内科）



- ① 岡山大学
- ② 平成6年
- ③ 子供と遊ぶことが楽しみです。
- ④ 地域の先生方と「れんけい」しながら、糖尿病教育入院を増やしていきたいです。

川西 裕之（麻酔科）



- ① 岡山大学
- ② 平成22年
- ③ 映画鑑賞
- ④ 早く一人前になれるように頑張ります。

転出

12月31日付

中田 憲一（糖尿病内科）

長江 正晴（救命救急センター）

2月28日付

橋本 啓二（放射線科）